

明けましておめでとうございます。
皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

私は皆様から市長職という重責を負託され、これまで「夢をかたちに」を念頭に、市民一人一人の幸せのため、市民が主役のまちづくりに全力を尽くしてまいりました。この間の市民の皆様をはじめ、関係各位からいただきましたご支援・ご協力に対し、あらためて感謝申し上げます。

さて、一昨年12月に開港した岩国錦帯橋空港は、開港前、一部にその利用率を不安視する声もありましたが、開港当初から多くの皆様にご利用いただき、地方空港では国内第2位の搭乗率を記録するまでになっております。また、開港を機に開催した「岩国架け橋会in東京」では、2度の開催で500名を超える岩国ゆかりの方々にご出席をいただき、岩国と首都圏の人と人をつなぐ「絆の架け橋」として、大きな成果を得ることができ、出席の皆様からは早くも増便や機材の大型化に向けた期待の声も寄せられております。さらに、10月の周年記念チャーター便では、200名もの方々がそれぞれの思いを胸にハワイへと飛び立ちました。このように、岩国と首都圏、そして世界を結ぶ「空の架け橋」は、順調

な滑り出しを見せております。

10月に開催された日米の外交・防衛担当閣僚による安全保障協議会（2プラス2）の共同文書において、かねてから要望してきた「海上自衛隊の残留」が決定した一方で「艦載機の移駐は平成29年頃までに完了する」「空中給油機の移駐は協議を加速、速やかに完了させる」などの内容が示され、その後政府から沖縄の負担軽減を目に見える形で進めることが必要であり、空中給油機を今年6月から9月の間に岩国基地へ移駐することについて理解と協力を求められました。

これまで空中給油機については「普天間飛行場の全面返還に係る諸条件が整う前の先行移駐は認められない」との基本姿勢で対応してまいりましたが、この要請を受け、普天間基地が存在する沖縄の過重な基地負担の現状を直接確認してまいりました。沖縄県知事や宜野湾市長との会談においては、両氏から「受け入れが理解いただければ、沖縄の負担軽減に大きくつながり、心から感謝する」と移駐に対する強い期待が示されるとともに、今後の基地対策については、相互の連携を強化していくことを確認してまいりました。
私といたしましては、沖縄の負担軽減の必要性から、市議会や山口県とも協議した上で、政府の要請を受け入れ

ることとし、同時に国に対しては普天間飛行場の全面返還に向けた最大限の努力を強く求めたところです。もちろん、岩国基地における安心・安全対策や地域振興策については、これまで以上にしっかりと取り組んでまいる所存です。

空港や岩国医療センターなどは「夢がかたち」になりました。岩国大竹道路・南バイパス南伸・西バイパスなどの幹線道路網、岩国駅周辺整備、愛宕山の消防防災センターや運動施設整備なども、着実に「かたち」になりつつあります。

こうした大型事業に併せ、好評をいただいている「地域ささえ愛交付金」や「みんなの夢をはぐくむ交付金」など、皆様の取り組みを応援する事業の充実に努め、より個性的で魅力的なまちとして築き上げてまいります。全ての市民が夢と希望を持つなかで、共に支え助け合い、元気に安心して暮らし続けることができるよう、オール岩国でその実現を図りたいと思います。

市民の皆様におかれましては、市政に対するより一層のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、この一年が、皆様をはじめ、岩国市におきましても、幸多い年でありますことを心から祈念申し上げます。
今年もよろしく願いいたします。

いわくに新時代！

岩国市長

福田良寿



新年明けましておめでとうございます。市民の皆様には、平成26年の初春を健やかにお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて本年、岩国市は、市町村合併から、早くも8年目を迎えることとなります。ここにおいて、さらに一体感のあるまちづくりを推進し、各地域の豊かな個性を生かしながら、市民の誰もが安心して生活することのできる、元気で魅力あるまちづくりを進めていかなければなりません。

岩国市議会では、昨年6月に「中山間地域（地域核）振興施策調査特別委員会」の最終報告を経て、議員提出議案として「岩国市中山間地域振興施策基本条例」を提出し、全会一致で可決いたしました。一昨年9月定例会において最終報告を行った「中心地域活性化施策調査特別委員会」のさまざまな提言と共に、広大な市域を有する本市において、中山間地域や中心地域が共に振興・活性化するような広域的なまちづくりの実現に向けて、なお一層の取り組みを進めてまいります。

愛宕山地域におきましては、本年は、昨年の医療センターの移設に続き、いわくに消防防災センターの建設など、新しいまちづくりが着実に進んでおります。また、岩国駅周辺整備事業も平成26年度からいよいよ事業着手となる

予定でございます。

岩国錦帯橋空港は、開港から1年余りが経過し、順調な搭乗率を維持していると同っております。これを、今後の岩国の大きな飛躍のための好機として、本市や周辺地域の観光・経済などのさまざまな分野で大きな効果を生むよう、地域が丸となった最大限に活用していくことが必要です。航空機利用によって、首都圏を含めた全国はもとより、世界までも視野に入れることとなります。今後、さらに広域交流による岩国圏域の活性化の推進が図られるよう、併せて、周辺地域との生活や産業の交流の活性化を図る道路交通網などの整備促進もますます重要となります。

さて、皆様もご承知のとおり、昨年7月に行われた参議院選挙で自由民主党が圧勝し、第1次安倍政権時代以来、一時期を除いて続いてきたねじれ国会が解消しました。これによって安定を得た安倍政権では、日本が直面している課題を乗り越えるために、さまざまな政策が迅速に進められております。市議会といたしましても、これらの政策が、早い時期に賃金上昇や雇用拡大などの具体的な効果として市民に享受され、実感できるよう願っております。また、まちづくりには行政のみならず市民の皆様との協働関係が重要でござ

います。これからの個性ある、若者が住みたくなるまちづくりの推進のために、どうか市民の皆様のご知恵と力で活気ある市民活動を展開していただきますようお願いいたします。

私は、昨年11月の臨時市議会におきまして、議長という重責を担うこととなりました。今期議員の任期も残すところ10カ月となっておりますが、岩国市のさらなる飛躍のために全力を傾注してまいります。

国においては、日本経済のデフレからの脱却という目標を掲げております。岩国市の財政も厳しい状況ではありますが、市民の皆様が、市議会といたしましても、市民の皆様への負託に応えられるよう、その機能を十分に発揮しながら、市民の皆様様の立場に立ち、財政基盤の強化を推進し、住みやすさを実感できるまちづくりの実現に向け全力で取り組んでまいりますので、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりにあたり、新しい年が市民の皆様と岩国市にとって、素晴らしい年となりますよう、心から祈念し、新年のご挨拶といたします。

基地を抱えていても 日本で一番住みやすいまち岩国

岩国市議会議長

栗原敏幸

